（別紙様式）

令和７年度　学校自己評価システムシート（県立大宮北特別支援学校）

目指す学校像	児童生徒が明るく、豊かに、たくましく成長し、社会にはばたく力を身に付けられる学校

重点目標	１　ＩＣＴの効果的な利活用をさらに進めるとともに、一般学級・重複障害学級の教育課程の特徴をより明確にした授業を実践する。 ２　施設面も含め、より安心安全で、より豊かな学びが実現できる学習環境を整備する。 ３　学校運営評議会（コミュニティスクール）を活用し、より充実した「社会に開かれた教育課程の実現」の視点を取り入れた効果的な教育活動を行う。

※　重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※　番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度		
	A	ほぼ達成（８割以上）
	B	概ね達成（６割以上）
	C	変化の兆し（４割以上）
	D	不十分（４割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	８名
	生徒	３名
	事務局（教職員）	４名

学校自己評価　年度目標　（２月１日現在）

番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	学校全体のＩＣＴの利用が進んできており、タブレット端末等の活用や効果的な授業実践に取り組めているが、さらに多くの実践を積み重ね、より児童生徒の実態に即した授業の組立、教材開発、校務への活用に積極的に取り組む必要がある。 一般学級・重複障害学級の教育課程に基づき、限られた教室等施設の中で学習環境を工夫しながら適切かつ効果的な指導を進めていくことが課題である。	ＩＣＴの効果的な利活用の充実と授業および校務の改善	各教職員が「ＩＣＴの利活用」を加味した実践に取り組む。 【全教職員】	「ＩＣＴの利用」について９０％以上の教職員の自己評価シートに盛り込まれ、授業のみならず校務全般においても積極的に実践されたか。	教職員の９０％以上が自己評価システムシートに「ＩＣＴの利活用」について記載しており、ICT が教育活動全般に欠かせないツールとなっている。	A	「ＩＣＴの利活用」について、今後は子どもたちの実態や学びの向上に応じた実践を、より積極的に進めていきたい。
		一般学級・重複障害学級それぞれの教育課程の特徴を反映した授業実践	各学部で重複障害学級の教育課程の特徴を反映した授業を工夫し、実践する。 【各学部】	重複障害学級の教育課程の特徴を反映した授業実践について、各学部が２つ以上、全体研究の中に実践例を示すことができたか。	全校研究において、重複学級の特徴を反映した授業実践の発表があった。2 年間の研究に取り組み、その成果を整理し、報告書としてまとめることができた。	A	一般学級・重複学級の教育課程の充実については、２年間の研究成果を踏まえつつ、各教育課程の特徴を生かしながら、今後も継続して研究及び授業の拡充に取り組む。
2	校舎の改修工事が進む中、日常の教育活動と教室環境整備に取り組み、教育活動の質の維持・向上をいかに進めていくか、児童生徒の安全と配慮・工夫・緊張感が必要である。 大規模災害時を想定し、引き続き計画的な訓練を実施し、より実践的な登下校時の対応について検討を進める必要がある。 全校研究のまとめの年度として、研究と実践の成果を十分に全校で共有し、学部間連携を意識して、日々の指導や学習環境の整備にさらに反映させていく。	施設設備のより安心安全な整備及び限られた施設設備の有効活用と災害時・緊急時の実践的な対応訓練	今後の児童生徒の増加を見据え、施設設備をどのように有効活用していくか、災害時・緊急時の対応もより実践的な内容になるよう検討する。 【管理職、企画委、関係部】	冷暖房設備の改修等、施設設備の適切な活用計画（教室配置等）が策定できたか。 大規模災害を想定した防災マニュアルの更新および実践的な緊急時対応ができたか。	施設・設備の改修後の活用にあたっては、安心・安全な教育活動が行えるよう、危険箇所の安全確保等について指導を行った。	A	次年度は、大規模災害を想定した防災体制の拡充として、児童生徒数の増加も見込まれることから、実践的な緊急対応として、全校一斉の引き取り訓練を計画及び実施する。
		研究の整理および個別最適な学びを支える構造化について研究と実践の成果のまとめ	全体研究のまとめの年度として研究①をさらに深め、学部間で研究を行うことで、構造化において指導の系統性や指導の一貫性を持たせる 【各学部、研究部】	各教室で、机・ロッカー等の配置の工夫、掲示物の精選やわかりやすい掲示、適切で効果的な視覚支援を学部間で系統性をもって進めることができたか。	昨年度に引き続き、学部混在の少人数グループを編成し、構造化に関する実践事例の発表を行った。外部講師を招いた研修では、研究テーマに沿った指導の系統性についての意識を高めることができた。	A	これまでの２年間の全体研究を踏まえ、新たな研究テーマを設定し、全校として活発な意見交換や実践発表を通して指導の系統性をさらに深め、全校の指導力向上を図っていきたい。
3	「社会に開かれた教育課程の実現」の観点から、コミュニティスクール（学校運営評議会）を活用し、広く校外のニーズや視点を取り入れ、外部資源を利用し、効率的に情報発信や外部資源の活用を進める。 高等部では、本校・分校の生徒全体の交流活動を促進する。小中学部では、近隣の小中学校との直接交流を促進する。	コミュニティスクールの効率的な活用	コミュニティスクールの力を活用し、情報発信や外部資源の活用について、効率的に進める。 【管理職、企画委、その他】	コミュニティスクールと学校が連動して、校外のニーズを取り入れ、より効率的な情報発信と外部資源の活用ができたか。	地域団体の資源活用として、これまで作品展示を行ってきた「パラミュージアム」において、展示スペースを拡大することができた。	A	地域団体との連携や公共施設等への作品展示を通して、外部団体との関わりを一層深めながら、今後も地域資源を効果的に活用できるよう積極的に取り組む。
		さいたま西分校との交流促進 近隣小中学校との学校間交流促進	さいたま西分校との生徒会交流を進める。 【高等部】 指扇北小、指扇中との学校間交流を活性化させる。 【小中学部】	さいたま西分校との生徒会交流が２～３回できたか。 近隣小中学校との学校間交流が複数回実施できたか。	さいたま西分校との生徒会交流では、分校・本校それぞれ１回、計２回の交流を実施した。 近隣小中学校との交流については、感染症の影響により、作品交換による交流となった。	B	さいたま西分校との交流では、交流回数の増加だけでなく、交流内容の充実を図る。 近隣の小・中学校とは、直接・オンラインを問わず、有意義な交流が行えるよう取り組む。

学校関係者評価

実施日　令和８年２月５日

学校関係者からの意見・要望・評価等
児童生徒数増加による教室不足の課題に対し、ICT を活用して工夫している様子を把握できた。評価項目の数値化は有効であり、授業での ICT 活用度も示せば成長が明確になると考える。次年度は「全授業の○○%で ICT 活用」など具体的目標が望ましい。ICT を活用した教材・機器の活用も検討してほしい。一般・重複学級とも柔軟な支援が行われており、個別実態に応じた充実を期待する。タブレットは将来必須のツールであり、アプリ活用の拡大も望む。学校生活を写真や動画で共有する機会が増えるとありがたい。
次年度には大規模災害を想定した訓練が計画されており、その効果を期待している。訓練を通じて課題が明らかになることも想定され、実施後には実際に機能する計画の整備が望まれる。また、訓練を事故なく終えること自体が重要な達成指標である。全校一斉の引き渡し訓練は現実的状況を想定した取組であり、高く評価する。特別支援学校の強みである学部間の連携と情報共有も今後さらに充実させてほしい。引き取り訓練は年度早期の実施が望ましく、校舎改築工事が続く中でも安全確保に努めてほしい。パーテーションを用いた教室の耐震性には不安があるが、生徒数増加の中で環境整備に努めている点には感謝している。
コミュニティスクールや地域団体との連携による取組を評価する。感染症で交流が制限された時期もあったが、今後は対策に留意しつつ継続・充実を望む。地域交流への要望は多く、学校行事との調整の中でも積極的に進めてほしい。また、スペース拡大の具体的数値を示すことで成果がより明確になると考える。交流機会が限られる地域特性を踏まえ、企業・団体への働きかけによる連携拡大を期待する。本校・分校の交流は有意義であり、他校との交流機会の増加も望まれる。パラミュージアムや近隣校との交流も意義深く、今後も継続してほしい。